深田久弥
山の文化館だより
令和5年
秋号

深田久弥　山の文化館
〒九二二―〇〇六七
石川県加賀市大聖寺番場町十八
TEL（〇七六二）七二―三三一三
FAX（〇七六二）七二―一一八一

ふるさとの自然ふれあいコンクール 入賞作品決まる

第十八回コンクールの作品募集を行ったところ、今年も多くの作品を応募して頂きました。画家の長谷川　清氏と写真協会会長の宮下一夫氏のお二人に審査をして頂き、入賞作品が決まりました。

加賀市長賞、加賀市教育委員会賞、深田久弥山の文化館賞それぞれ一点と、佳作十点、入選十一点が選ばれました。これらの入賞作品は九月二十三日（土）から十月九日（月）まで深田久弥山の文化館聴山房で展示されます。

加賀市長賞　上野　聡仁 さん（片山津小１年）

教育委員会賞
山口　輝石 さん（金明小三年）

深田久弥山の文化館賞
長尾　春斗 さん（作見小二年）

久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と その23

書き込みのある地形図一覧を見ていて、「瑞牆山へ赤鉛筆」というのが目に留まった。先日知人が古いルートから、瑞牆山に登ってきたばかりだったからだろうか。

「金峰山」の地形図（地勢図甲府の五番）は二枚あり、古いほうは「信州峠」、「甲武信岳」、「国師岳」の項で使用したものである。今回は昭和四年修正の新しい方である。現在の、みずがき山リーゼンヒュッテの先、沢の分岐あたりから瑞牆山へのルートにハッキリと赤鉛筆の線が引かれている。これは昭和三十二年七月の山行である。この山行の様子は、『山があるから』の「瑞牆山」と題する文章に書かれている。避衆登山を唱えていた久弥だが、「山は一人で静かに歩くのもいいが、大勢で賑やかに行くのもまた楽しい。」と書いているように一行は十人だった。この山行の一番の目的は、金山平でその前年、昭和三十一年から行われていた木暮理太郎の碑前祭に参列し、前年に刊行した自著『ヒマラヤー山と人』を、尊敬する木暮理太郎の碑前に捧げることであった。その後一行は無事瑞牆山に登っている。

昭和三十一年から、木暮の関係者よって行われていたこの碑前祭は、平成十五年には、昭和三十四年に始められていた木暮祭に統合された。そして、毎年十月に開催されている。今年の木暮祭は、六十四回目である。

参考文献：『山があるから』「瑞牆山」
日本山岳会会報「山」No.894

鎌倉巡り

山の文化館の蔵書にある「文学界創刊号」は、昭和八年に発刊されたもので、川端康成、小林秀雄、林房雄らが名を連ね、深田久弥はこの年の編集委員となっている。この同人誌のために、文士たちが鎌倉に集まったといっても過言ではない。これが世にいう鎌倉文士である。

深田は毎号文章を載せていて、四号の「二月初頭の日記」という記事に、「二月一日、昨夜大岡昇平君が話に来ているところへ、小泉三申氏からの帰りだと云って林房雄君がウイスキーの壜をさげてやって来た」とある。また、「雪の中の正月」には、「元旦は久米さんで飲み、二日は里見さんで飲み、三日は大佛さんで飲み、四日は今日出海君のとこで大飲み」と、ことあるごとに集まって、酒を飲み、書評で激論を戦わせる文士たちの賑やかな様子が覗われる。

太宰治は「狂言の神」に、鎌倉市二階堂大塔宮前に住んでいる深田家を訪れ将棋をさしたことを書いている。自殺を考えていた太宰が、深田との時間を持つことによって踏みとどまったようだ。

昭和八年に二階堂からほど近い歌の橋手前に転居した頃、堀辰雄が深田の妻である北畠八穂の見舞いに来て倒れ、深田家でしばらく療養したとある。

その後、雪の下へ転居したというところまで追いかけた。

鎌倉市の地図を広げて、鎌倉文士たちとのやり取りが聞こえるような場所を追うのも楽しい。

これは、是非とも鎌倉へ行こうという気持ちが膨らみ、令和三年秋に決行した。

JR鎌倉駅から北へ向かって、若宮大路を歩く。鶴岡八幡宮の方向である。コロナ禍で、世の中はまだマスク姿で、大路の両側に鎮座している鶴岡八幡宮の狛犬も、大きなマスクをしていた。神社を横目で見て右に折れ、雪の下を通る。

駅から二十分。この雪の下という所で、小林秀雄、大佛次郎らと共に、夜な夜な会合が行われたのだろう。ここから大塔宮へは、Y字型になった細い道を左へ向かう。突き当りに大塔宮があり、その真ん前が深田の住家だ。

荒れた土地に、九十一番地と書いた電柱のみがあった。この界隈を歩いていた文士たちの活動風情が、脳裏に浮かぶ。

もう一度訪ねてみたい鎌倉の風情であった。

杉村　雅子

聞こう会予定

聞こう会はリモートで二会場形式にして実施しています。（聴講無料）
午後一時半より三時
深田久弥山の文化館聴山房 他

■十月二十一日（土）
演題…深田久弥と日本百名山
講師…萩原 浩司 氏（山と溪谷社）

■十一月十九日（日）
演題…海と山のあいだ ーリアス海岸の魅力
講師…多賀谷 真吾 氏（写真家・大学講師）

■十二月十日（日）
演題…能美の里山の生き物
講師…井出 秀二 氏
（石川県自然解説員研究会）

読書会のお誘い

『日本百名山』など深田久弥の作品を読んで、山やその自然、文化について語りあっています。お気軽にご参加下さい。（参加無料）

十月二十七日（金）
『日本百名山』より「甲斐駒ヶ岳」

十一月二十四日（金）
『日本百名山』より「天城山」

●場所＝深田久弥山の文化館
●時間＝午後一時半より三時

＊詳細はホームページをご覧下さい

編集後記～

秋号をお届けします。さしもの猛暑もおさまり、ギンナンが落ち始めました。そして、今年もイチョウの落葉があたり一面を黄色く染めてくれると良いのですが。異常気象はどんな場面を作るのでしょうか。Y